

エベン・エゼル

シリーズ～預言者の声～

2022/1/30

先週のおさらいクイズ

問)最後の士師と呼ばれる預言者は誰？

答)サムエル

問)サムエルの母ハンナは男の子が与えられたらどうすると主に約束しましたか？

答)頭にかみそりを当てず、主にささげる

問)主がサムエルを呼ばれたのは何のためでしたか？

答)これから起こることを知らせるため

問)主がサムエルに告げられた内容とは？

答)エリー一家に対する裁き

エリー家に対する裁き(4章)

- 戦場に持ち込まれた契約の箱
 - ペリシテとの戦いを有利にするため
 - エリの息子たち、ホフニとピネハスも同行した
- 奪われた契約の箱
 - イスラエルの民の歓喜に奮起したペリシテがイスラエルを打ち破り、契約の箱を奪った
 - その際、ホフニとピネハスも殺された
- エリの死
 - 契約の箱が奪われ、息子たちが死んだことを知らされると、エリは「あおむけに落ち、首を折って死んだ」

サムエル記上7章2～15節

主の箱がキルヤト・エアリムに安置された日から時が過ぎ、二十年を経た。イスラエルの家はこぞって主を慕い求めていた。サムエルはイスラエルの家の全体に対して言った。「あなたたちが心を尽くして主に立ち帰るというなら、あなたたちの中から異教の神々やアシュトレトを取り除き、心を正しく主に向け、ただ主にのみ仕えなさい。そうすれば、主はあなたたちをペリシテ人の手から救い出してくださる。」イスラエルの人々はバアルとアシュトレトを取り除き、ただ主にのみ仕えた。サムエルは命じた。「イスラエルを全員、ミツパに集めなさい。あなたたちのために主に祈ろう。」

人々はミツパに集まると、水をくみ上げて主の御前に注ぎ、その日は断食し、その所で、「わたしたちは主に罪を犯しました」と言った。サムエルはミツパでイスラエルの人々に裁きを行った。

イスラエルの人々がミツパに集まっていると聞いて、ペリシテの領主たちはイスラエルに攻め上って来た。イスラエルの人々はそのことを聞き、ペリシテ軍を恐れて、サムエルに乞うた。「どうか黙ってしないでください。主が我々をペリシテ人の手から救ってくださるように、我々の神、主に助けを求めて叫んでください。」サムエルはまだ乳離れしない小羊一匹を取り、焼き尽くす献げ物として主にささげ、イスラエルのため主に助けを求めて叫んだ。主は彼に答えられた。

サムエルが焼き尽くす献げ物をささげている間に、ペリシテ軍はイスラエルに戦いを挑んで来たが、主がこの日、ペリシテ軍の上に激しい雷鳴をとどろかせ、彼らを混乱に陥れられたので、彼らはイスラエルに打ち負かされた。イスラエルの兵はミツパを出てペリシテ人を追い、彼らを討ってベト・カルの下まで行った。サムエルは石を一つ取ってミツパとシェンの間に置き、「今まで、主は我々を助けてくださった」と言って、それを**エベン・エゼル(助けの石)**と名付けた。ペリシテ人は鎮められ、二度とイスラエルの国境を侵すことはなかった。サムエルの時代を通して、主の手はペリシテ人を抑えていた。…サムエルは生涯、イスラエルのために裁きを行った。

民に悔い改めを求めたサムエル

- ペリシテに苦しめられ主を求めた民
 - 20年かかってようやく主に心が向いた
- 異教の神々を取り除き、主にのみ仕えるよう命じたサムエル
 - 「あなたたちの中から異教の神々や(バアルや)アシュトレトを取り除き、心を正しく主に向け、ただ主にのみ仕えなさい。」
- ミツパに民を集め、主に祈ったサムエル
 - 「人々はミツパに集まると、水をくみ上げて主の御前に注ぎ、その日は断食し、その所で、『わたしたちは主に罪を犯しました』と言った。」

バアルとアシュトレト



- バアル

- カナンの肥沃神・農耕の神
- 天候を司ると信じられていた
- 手に持っているのは雷→

- アシュトレト

- バアルの妻
- 愛と戦争の神
- ツロ・シドン(カナン北部)の神
- 道徳的腐敗をもたらした

攻め込んできたペリシテ

- 攻め込んできたペリシテ
 - 民が一箇所に集まっているのでイスラエルが責めてくると思った
- 主に助けを求めるサムエル
 - 「我々の神、主に助けを求めて叫んでください。」
 - 「イスラエルのため主に助けを求めて叫んだ。」
- 祈りに答え、イスラエルを救われた主
 - 「献げ物をささげている間に…ペリシテ軍の上に激しい雷鳴をとどろかせ、彼らを混乱に陥れられた」<雷鳴は本来バアルの得意技

エベン・エゼル

- 主が助けて下さったことを記念して
 - 「サムエルは石を一つ取ってミツパとシェンの間に置き、『今まで、主は我々を助けてくださった』と言って、それをエベン・エゼル（助けの石）と名付けた。」
- 領土を回復したイスラエル
 - ペリシテに奪われていた領土を取り戻した
- イスラエルを治めたサムエル
 - 「サムエルは生涯、イスラエルのために裁きを行った。」

サムエル記上8章4～9節

イスラエルの長老は全員集まり、ラマのサムエルのもとに来て、彼に申し入れた。「あなたは既に年を取られ、息子たちはあなたの道を歩んでいません。今こそ、ほかのすべての国々のように、我々のために裁きを行う王を立ててください。」裁きを行う王を与えよとの彼らの言い分は、サムエルの目には悪と映った。そこでサムエルは主に祈った。主はサムエルに言われた。

「民があなたに言うままに、彼らの声に従う
がよい。彼らが退けたのはあなたではない。
彼らの上にわたしが王として君臨することを
退けているのだ。彼らをエジプトから導き
上った日から今日に至るまで、彼らのするこ
とといえ、わたしを捨てて他の神々に仕え
ることだった。あなたに対しても同じことをし
ているのだ。今は彼らの声に従いなさい。た
だし、彼らにはっきり警告し、彼らの上に君
臨する王の権能を覚えておきなさい。」

王を求めたイスラエルの民

- 主はイスラエルにリーダーを立てなかった
 - 必要に応じて預言者や士師を立てられた
- イスラエルの民は周圀の国々の王たちを見てうらやましくなった
 - 「ほかのすべての国々のように、我々のために裁きを行う王を立ててください。」
- 王を求めることは主を退けること
 - サムエルにとっては不愉快な願い
 - 「彼らが退けたのはあなたではない。彼らの上にわたしが王として君臨することを退けているのだ。」

- 預言者と王

- 預言者は主と民との間に立ち、民の目を主に向けさせ、主と結びつける
- 王は民の上に君臨し、民を徴用する(11～18)

- 偶像と王

- 偶像：目に見える形の神を拝む
- 王：目に見えるリーダーに頼る

- 主が求めておられること

- 主のみを神とすること
- 私たちと主との間に何も介在させないこと
- 主ご自身を王として認めること

「サムエルは石を一つ取ってミツパとシェンの間に置き、『今まで、主は我々を助けてくださった』と言って、それをエベン・エゼル(助けの石)と名付けた。」